

れい: そうね。幸一だったら疑いもしないでしょ。

幸一: おいおい、れいが喋りだしたと思ったらそれかい。まあ、そうだけど、普通疑わなくない?

発飛校長: 話を元に戻すと、

「最初のいくつかが成り立つからといって、その後もずっと成り立つとは限らない」

ということなんですよ。

幸一: 数学って慎重じゃなきゃということか。

発飛校長: 数学の歴史には今説明したフェルマー数以外にも多く「失敗談」があるので、ときには過剰なくらい慎重になるものなんです。まあ、だからこそ数学なんですけどね。有名な話として次のような「羊のジョーク」という話があります。

幸一: なんですか? その話は?

発飛校長: お話しましょう。これには、細かな点で異なるバリエーションが多くありますが、大方は次のような話です。

【羊のジョーク】

昔、イギリスのスコットランドを車で旅行した 3 人がいた。この 3 人とは、

- a. 天文学者 (あるいは、工学者、文学者、一般人という説もある)
- b. 物理学者 (これも異説がある。少なくとも a. よりは c. に近い設定)
- c. 数学者

である。ふと車の中から窓の外を眺めていると一頭の黒い羊を見かけた。これに対し 3 人は次のようにコメントした。

天文学者: ほー。イギリスの羊というのは黒いんだね。

物理学者: それは早計だな。「イギリスには少なくとも一頭は黒い羊がいる」というのが正しい言い方ではないかい。